

いしずえ

発行日 令和8年1月1日(木) 第213号

編集・発行：一般社団法人沼津建設業協会 広報みらい委員会
沼津市本田町9-33 電話(055)943-6726

<http://numazukenkyo.jp/>





年頭の挨拶

(一社)沼津建設業協会

会長 加藤 修 一



明けましておめでとござい
ます。二〇二六年の干支は「丙
午〔ひのえうま〕」となり、丙は
陽の「火」を表し、太陽のよう
な明るさや情熱、強い意志を象
徴するようです。午は馬を表し
行動力やスピード、エネルギー
を意味すると言われています。
丙午には「情熱と行動力で突
き進む」「燃え盛るようなエネ
ルギーで道を切り開く」といつ
た縁起の良さがあるようです。
昔は丙午の年に生まれた女の
子は気性が激しいと言われ、子
供を産むのを避けることもあつ
たようで、事実60年前の丙午の
年は出生率が前後の年に比べて
低かったようです。もちろん今
ではそんなことを信じる人は
いませんし、むしろ「活動的
な年」になってほしいと願う
ばかりです。

昨年十一月に役員で能登の
視察に行つてまいりました。金
沢から車で門前町、輪島とめ
ぐるコースで、まずは隆起した
海岸を見に行きました。地震の
エネルギーのすごさにただ驚
嘆するばかりで、地上部分はさ
ほど大きな影響が出ているよう
には見えませんでした。海だけ
が潮が引いたようになり、陸地
が大きく増え、以前はちようど
良い高さだったと思われる船着

き場の船が2m以上も下にある
状態になっていました。部分的
に隆起したのではなく半島の一
部が全体的に盛り上がったとし
か言いようが無い光景でした。
次に門前町の曹洞宗大本山総
持寺祖院へ向かいました。ご存
じのとおり鎌倉時代に開山さ
れた曹洞宗の大本山でしたが、
明治31年に大部分を焼失して以
来布教の中心は横浜市鶴見に移
されました。大正から昭和にか
けて再建され、福井県の永平寺
と並んで、禅寺として風光幽玄
な姿は一大聖地として、多くの
参拝者でにぎわつていたと想像
されます。しかし、我々が出向
いた日は参拝者もほとんどい
ない状態でした。地震の影響は
大きな建物は外からはよくわか
りませんでした。回廊や周辺
の建物は大きく損傷を受けてい
ました。不思議なことに復旧工
事があまり進んでいません。大
きな宗教法人ですので、さぞや
大々的に修繕工事が行われてい
るのかなと思つていたのですが、
費用が集まらないのか、非常に
寂しい気持ちになったのは私た
けではなかつたと思います。
HPをみると復興支援クラウド
ファンディングを実施している
ようです。ほとんどの建物が国
登録有形文化財ですので、復興

のシンボルとして国の支援があつ
ても良いと思つています。
次に我々は輪島の朝市の現場
を訪れました。公費で解体が進
められたあとは一切手付かずな
状態です。朝市通りの道路の形
状は残つていますが、傾いた街
灯や壊れた石塔が存置されたま
まで。調べたところ現在のは区
画整理が進められていて、転出
者の土地を買い上げて新たな道
路を造る計画のようです。10
00年以上の歴史を持つ朝市
の以前の状況は露店を含め、密
集した建物群であつた記憶が
あり、確かに今の建築基準法で
は建て替えられないのも事実で
す。しかし、狭い中に露店も含め
多くの店舗がひしめき合つてい
たのも一つの魅力だつたと思つ
ています。きれいに区画整理さ
れた商店街を地権者の人はつく
るでしょうか。震災直後は早い
復旧を目指そうとしていた方も、
人口減少や出展者も減る中で、
個別投資は大丈夫かという不安
に悩まされていると聞いていま
す。
震災前も減少傾向であつたこ
と、観光客を中心とした市場たつ
た事により、未来の姿を描くこ
とが難しいと言わざるを得ま
せん。
これは地方のどの町でも言える
ことで、同じことをしている限
り、持続可能な発展はないわけ
で、輪島朝市のようにすべてを
失つてしまった状態の中から作
り直す困難さは想像を絶するも
のです。私なりに意見を述べさ
せて頂ければ、身の丈にあつた
再開発の手法で国の予算も頂き
ながら再生することも一つの方
法だと思つています。事例とす
れば金沢の近江町市場のような
共同の建物をつくり、港の新鮮
な魚と地元農産物店や食堂な
どで構成し、地元の方が主とし
て利用できるエリアにすること
です。
そして何よりも重要なことは
若い方が中心となつて再生の企
画をし、運営にも携わることだ
と思ひます。
今回の能登の視察は我々に多
くの教訓を残しました。中で
も私が感じたことは長い歴史
や文化の継承も、人々の営みを
理解したうえで、地域や自らの
夢の実現に向けて、たゆまぬ努
力が必要だということです。一
日も早い能登の復興を祈つてい
ます。
最後に丙午の年がすべての会
員の皆様にとって、情熱と行動
力で突き進む年となることを
期待いたします。今年もよろし
くお願い申し上げます。

会員紹介 株式会社加藤工務店

株式会社加藤工務店本社…

分野に対応しています。

静岡県沼津市大諏訪は、一九七〇年七月の創業以来、半世紀以上にわたり地域に根ざした総合建設業として歩み続けてきました。建築一式工事を中心に、設計から施工までを一貫して行う体制を備え、公共工事、民間事業者様向け建築、個人のお客様の一般住宅まで幅広い

近年は、従来の施工力に加え提案力が求められるPFI事業や市街地再開発事業にも積極的に参画させて頂いてます。地域課題を的確に捉え、企画・設計・施工を総合的に考えることで、まちづくりへの貢献度を高めています。

会員紹介 藪田建設株式会社

当社は昭和四十三年に私の父である初代・藪田貞博が開業し、昭和五十年の会社設立に伴い御殿場市新橋の現在地に本社を設けました。

平成二十四年四月に二代目となる藪田徳和が事業を継承し、土木工事の中でも舗装工事を主に行っています。

創業以来『地域社会に貢献し、環境を考慮した施工を心掛ける』『正確かつ迅速、信頼される仕事を後世に残す』をモットーに仕事に取り組んでいます。

専門性のある舗装工事業にすべく、自社保有の舗装機械の設備投資、直営施工班の人材育成に努めてきた結果、厳しい経営状況ではありますが、会社設立五十周年を迎えることができました。これも

社内では、防災・安全・テクロノジーなどの分野ごとに委員会を設置し、社員が主体的に学び続ける仕組みを行っています。とくにBIM操作やICT活用を入れ、次世代を見据えた技術の習得に努めています。

当社取締役の加藤利基は当社にも在籍していますが、東京でA I空間デザインコミュニケーション・サービスをを行う会

ひとえに会社をともに育ててくださった地域の皆様、社員をはじめ協力会社の皆様のおかげと感謝いたします。

今、時代は激しく変化しています。災害が激甚化する中、建設業者には地域の守り手としての活躍を期待されることが増えてくると思います。地域の利便性向上とともに、災害対応なども含めた地域住民への安全の提供こそが我々に与えられた使命なのではない

社を経営しています。リアルタイムで思い描く空間をデジタル化するなど、今後の建築・都市計画企画には欠かせない技術であり、少しずつですが当社でも計画に取り入れています。

【会社概要】

商号 株式会社加藤工務店
所在地 沼津市大諏訪八八五番地
設立 昭和四十五年七月
資本金 四千万円
代表者 代表取締役 加藤修一

でしょうか。これからも社会の変化に取り残されないように、社員一同日々の技術力向上に取り組み、地域に根ざした会社を目指していきます。

【会社概要】

商号 藪田建設株式会社
所在地 御殿場市新橋字二ツ塚二四八番地の一
設立 昭和五十年七月
資本金 二千万円
代表者 代表取締役 藪田徳和



特集
**現災害に強い「まち」を
 情報共有アプリで**

災害が増える地域で求められる、新しい情報共有のかたち

近年、静岡県東部地域では、大規模地震の危険性や、局地的な豪雨に伴う土砂災害の発生など、地域の安全を脅かす要因が増えつつあります。これまで災害時の初動対応においては、電話やメールによる連絡が中心で、現場の状況がすぐに共有されない、同じ場所に複数の業者が向かってしまう、あるいは情報の抜け漏れが生じるといった課題が続いていました。こうした背景の中で、地域を守る建設会社の迅速な判断を支えるため、株式会社Maison Technology(東京都港区)が主体となり、企画に株式会社加藤工務店が参画する形で、災害対応を支援する新しいデジタルシステム「HIGAI CHAT/MAP」(ヒガイチャット/マップ)を開発しました。



NCCで始まった実証運用と、誰でも簡単に使えるシステム

令和六年十二月には、沼津セントラル・コンストラクション(NTL)とNCC(日本建設業連合会)の協同組合(NCC)において実証運用が始まり、地域の建設会社から実際にシステムを用いた被害報告を試験的に行っています。特別な端末やアプリを必要とせず、普段から多くの人が利用できるLINE上で被害を報告できる点が大きな特徴で、導入のしやすさも高く評価されています。



被害報告アプリを体験する様子

LINEを用いた「誰でもできる」スピーディな報告(HIGAI CHAT)

HIGAI CHATでは、まず担当者がLINE上で自分の名前や会社名などを登録し、準備が整うと「被害報告」という項目が選べるようになります。現場で異常を確認した際には、LINEのメニューから報告画面を開き、画面に表示されるボタンを押すことで災害状況の種類を選択し、スマートフォン上の位置情報を送信すると、被害地点が自動的に地図上に表示されます。さらに、その場で撮影した写真や保存されてい

被害を「地図で見ること」が可能になる迅速な判断(HIGAI MAP)

る画像を添付し、状況の緊急度を示す被害レベルを入力すれば、報告は1分ほどで完了します。文章による補足が必要な場合には、チャット欄にコメントを入力して送信することもできます。これらの情報はすべてサーバに自動的に保存され、担当者の負担を増やすことなく記録が残る仕組みになっています。

HIGAI CHATで送信された情報は、HIGAI MAP上で自動的に整理され、地図上にピンとして表示されます。地図上の地点をクリックすると、送信された写真や被害レベル、報告者名などが確認でき、現場の状況を一目で把握できます。必要に応じて災害の種類やレベルで絞り込むことも可能で、複数の案件が同時に発生する災害時には、どの場所から優先して対応すべきかを判断するうえで大きな助けとなります。また、地図だけでなく一覧形式での確認にも対応しており、表形式(CSVなど)として出力できるため、行政や建設業協会との情報共有にも適しています。



HIGAI CHAT



HIGAI MAP

現場から寄せられている 声と、地域での手応え

参加企業からは「LINEで報告できるので、普段の業務の延長で使える」「写真と位置情報がすぐ共有され、判断が早くなる」などの声が寄せられており、災害対応の新しい形として手応えが感じられています。従来の電話やメール中心の報告では、連絡の重複や情報の錯綜が生じることがありましたがHIGAI CHAT/MAPにより、現場の状況を即座に反映し、一つのプラットフォームで可視化されるため、初動の混乱を大幅に減らす効果が期待されています。

静岡県東部から全国へ広がる #地域発の災害DXモデル

今後は、静岡県東部での運用を基点に、静岡県全域、さらに全国と同様の課題を抱える地域へと展開していく構想が進んでいます。静岡県は地震リス

クが高いだけでなく、山間部や海沿いなど多様な地形を有しており、建設会社が日々の維持管理を担う必要性が大きい地域です。だからこそ「現場が使いやすい災害DX」のユーザーズを静岡県東部から生み出し、同じような課題を抱える地域の手助けとなるモデルとなることが期待されています。

ドローンやAIと 連動する未来の姿

将来的には、ドローンによる空撮映像を地図上に重ねて確認できる機能や、停電・通信障害時でも使える無線通信との連携など、より実践的な災害対応を実現するための機能拡張も計画されています。蓄積されたデータをもとに、AIが通行可能なルートを推定したり、過去の災害傾向を分析したりすることで、平時の防災計画にも役立てられる未来が描かれています。

地域の安全を守る #建設会社"を、デジタルで支える

災害時に最前線で地域を守るには、地域に根ざした建設会社の皆さまです。HIGAI CHAT/MAPは、その大切な役割をデジタルの力で支える新しい基盤として、静岡県東部で産声をあげました。地域の実情に合わせて育てていくことで、災害時の混乱を少しでも減らし、地域の安全と安心を守る仕組みとなることを願ってやみません。

〈原稿作成者〉

株式会社加藤工務店
取締役 加藤利基

Service 想定効果・メリット

LINE・Google Map = 全ての人使いやすい

初動対応のスピード向上

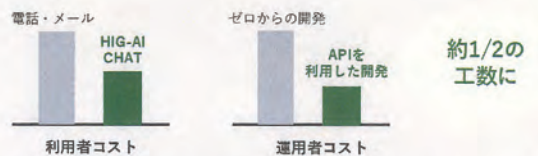
Webシステムにより、迅速な報告・可視化
→ 復旧工事の開始が早めることができる。
LINEという普段利用して使い慣れているサービスの連携により、
操作に関して誰でもすぐに利用可能に

X支援



復旧優先度の適切な判断

データが地図上で一覧化されるため、
被害の深刻度合いを踏まえた対応可能。
ルート検索で的確なシミュレーションを行い、最適な判断をAIがサポート。



利用者・運用者目線でのコストの削減

電話・メールの依存を減らし、統一プラットフォームで管理。
ユーザーの情報連携コストの削減。
また、既存のシステムのAPIを活用することで、
初期開発費用、運用コストを削減

自治体DX の第一歩



データの蓄積で将来的な防災力強化

過去の災害データを蓄積し、
次回以降の災害時にスムーズに参照・応用。

年男・年女 からひとこと



(株)浩和建设
代表取締役
山口 浩和

あけましておめでとございます。

「年男・年女からひとこと」という内容で寄稿をと依頼されまして、言われてみれば年男でもしも還暦という年を迎えることを私自身もあらためて実感しているところです。

私の年代は丙午の年になり



(株)室伏組
代表取締役
室伏 良太

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

2026年の干支の午年は丙午と呼ばれ、躍動する午に火の力が重なる事で情熱や勢いが高まり、太陽のようにエネルギーが満ち溢れる年となるそうです。

私が建設業に携わり早30年

まして前後の年代よりも若年人数が少なかつたと思います。

それでも小学校3年時に新しい小学校、中学校2年時にも新しい中学校ができ、半数程度ずつに分けられたりと現在の少子化の時代とは違っていました。

会社の方は私が30歳の時に法人化しましたので、今年創立30年を迎えます。

30代40代50代と無我夢中で仕事をしてきましたが、時代の流れというかテンポというものがどんどん速くなっている

日々の仕事と趣味の釣りに没頭しています。

平成27年に代表取締役に就任し、9年目になります。

様々な問題の壁があり、その中でも困難なもの1つとして、担い手の確保についてです。昨年は会社の体制を変え働き方改革をし、従業員とともに従事してまいりました。

今後この先、建設業を目指す若者がお洒落な作業服に身を包み、活躍できるような職場の環境作りに配慮してまいります。

ように感じます。世間一般もそ

うですが、我々建設業界もICT化やICT施工などいろいろと新しいものがすごいスピードで生まれ、そして変化しています。

しかし、どの分野の仕事でも人間の力マンパワーなくして成り立たないと思っております。私も会社も古き良きものを大切に、かつ新しいものに必死で食らいつきながら今後も頑張っていこうと、この原稿を書きながら心に誓いました。

昨年末に竹馬の友に誘われ

まいります。

そのために、私自身が日々の生活を大切にし、健康管理を心掛けて行きます。

明るく楽しい職場を目指し、安全を第一に考え、若手の人材確保と育成に注力し、持続可能な組織作りに精進していく所存です。

さらに協力会社との信頼を深め、働き方改革を進めていき、ワークバランスを改善し共に成長していきたいと思っております。

本年は挑戦と成長の1年とし、未来へ続く基礎を築いて

で矢沢永吉さんのコンサートに行ってきました。76歳だそうです。まだまだ私はヒヨッコです。

健康応援便

静岡県東部保健所長
鉄 治

(40)

国民皆保険と「働く世代の負担」をどう考えるか

最近、15〜64歳の働き盛り世代から、「社会保険料が重い」「このままでは将来が不安だ」という声をよく耳にします。一部の政党が「負担の軽減」を訴えるのも、こうした切実な声を反映してのことでしょう。家計を支える世代にとって、負担増は確かに深刻な問題です。

では、医療保険を「任意加入」にすれば、本当に負担は軽くなるのでしょうか。中小企業で働く人が多く加入する協会けんぽの立場で考えると、答えは単純ではありません。

任意加入になれば、若くて健康な人ほど「今は病院に行かないから、保険に入らなくてもいい」と考えるでしょう。しかし、その結果、協会けんぽには医療ニーズの高い人がばかり残り、保険料率は上

がらぎるを得ません。結局、「働く世代の負担がより重くなる」という逆転現象が起きるのです。

そして、無保険を選んだ若い人自身にも深刻なリスクがあります。突然の事故や病気は誰にでも起こり得ます。建設業に携わる皆様であれば、休日の怪我や交通事故、心臓病やがんといった病気のリスクは実感されているでしょう。手術や入院となれば医療費は数百万円に及ぶこともあります。無保険のまま重い病気や怪我に見舞われれば、治療費が払えずに適切な医療が受けられなかったり、借金を背負って生活が破綻したりする恐れがあります。健康を損なえば仕事も失いかねず、保険料を節約したつもりが、人生そのものを危うくすることになるのです。

働く世代に跳ね返ってきます。皆保険制度は「誰かに負担を押しつける仕組み」ではなく、多くの人が支え合うことで一人あたりの負担を抑える仕組みです。若い人も、子育て中の人も、高齢者も、異なるステージの人々が互いに支え合ってきたからこそ、日本の医療は安定してきました。

野帳

未来の子供たちへ

私には、5男・1女の子供がいる。長男・次男・長女は就職してそれぞれ仕事を持ち、三男は、小学生。四男・五男は、保育園生である。おそらく君達

が生きていく時代には、AIが私達の想像を超えて進化しているだろう。私が生業としていた建設業も情報処理技術や自動運転等のテクノロジは、物凄いスピードで進化しています。

学校や仕事も、医療や芸術までもがAIと共に行われ、人間の暮らしは現在よりもっと便利で快適になっていると思う。

しかし、その便利さの裏には、見えにくい危険が潜んでいる可能性がある。

AIは自分で判断し、言葉を操り、まるで感情があるかのようにふるまうことが出来るが、それは「人間のように感じる心がある」わけではない。

AIはあくまでも蓄積されたデータとコマンドによって動く機械であり、「善悪の心」や「他者への思いやり」は存在しない。

もし人間が自分で考えることをやめてAIにすべてを委ねてしまえば、私達は自分で考

える力を失い、AIの決定に従うだけの存在になってしまうかもしれない。

さらに、AIは誰かの意図によって操られる可能性もありえる。意図的に情報が歪められる可能性もある。真実を自分の力で選択していく世界では、「正しいこと」を判断する力が何より大切になる。目先の便利さに流されず、疑問を持ち、自分自身の頭で考えることを忘れないでほしい。

AIは敵ではないだろう。しかし、それを使う「人間の心」次第では、AIは便利な相棒にもなるし、身を滅ぼす恐ろしい力になる可能性もある。だからこそ君たちは知識だけでなく、誠実さや優しさ、他人を思う想像力を育ててほしい。

未来の世界を導くのはAIではなく、あなたたち自身です。AIに支配されるのではなく、思いやりの気持ちを忘れずにAIと共に人間らしい未来を築けるように頑張ってください。

広報みらい委員会

第29回
作文コンクール

「親子現場見学会」

最優秀賞に
降幡祐汰さん、川口拓真さん

- 低学年の部
 - ▽最優秀賞 降幡 祐汰さん (小山町立足柄小学校三年)
 - ▽優秀賞 渡部 太智さん (長泉町立長泉小学校三年)
- 高学年の部
 - ▽最優秀賞 川口 拓真さん (長泉町立長泉小学校六年)
 - ▽優秀賞 宇野 啓介さん (長泉町立長泉北小学校六年)

低学年の部
「最優秀賞」
さいころの一日
小山町立足柄小学校三年
降幡 祐汰



ぼくは、小さいころから、じゅうきがすきでした。公園に行つて、買つてもらつたシヨベルカーのおもちやですなをすくつたり、ダンプカーにそのすなを入れてはこんだりして遊んでいました。家の近くの工事げん場にもよくつれて行つてもらつて、家に帰つてから図かんでそのじゅうきの名前をよく調べてました。友だちのお父さんから、夏休みに、親子げん場見学会でコマツテクノセンターに行けることを教えてもらいました。ぜつたいに行きたいと思つて、すぐお母さんにもうしこんでもらいました。見学会がまじどおしかつたです。

マツテクノセンターへつくとまず大きな部屋に入りました。そこにはスクリーンがあつて、いろいろな場所で活やくするじゅうきのえいぞうがながれていました。しばらく見ていて、目の前のカーテンが開いて、たくさんのじゅうきがならんでいました。今まで図かんでしか見たことがなかつたじゅうきもあつてぼくのゆめが一つかなつた気がしました。デモンストレーションでじつさいに動くようすが見られてうれしかつたです。デモンストレーションの後、外に出ました。ま近でじゅうきを見てあまりの大きさにびっくりしました。なかなかできるけいけんではないので、とてもうれしかつたです。その後、とくべつにシュミレーターもそうじゅうさせてもらいました。ぼくは、シヨベルカーをそうじゅうしました。本当にシヨベルカーをそうじゅうしているみたいでした。自分が動かしたいように動かなくてアームをトラックにぶつけてしまつたり、土をこぼしてしまつたりして大へんでした。シヨベルカーをうんでんするのは、こんなにたいへんなんだと思ひました。こんなにおもしろいそうじゅうを、自分のうでのように、きょうに動

かしているオペレーターの人は、すごいぎじゅつを持っている人だと思ひました。またきかいがあつたらコマツテクノセンターに行きたいです。お昼ごはんを公園で食べました。おべん当の中のシューマイがとてもおいしかつたです。食べ終わつて遊んでいたら、あたらしい友だちができました。その子とまた遊びたいです。見学会にさんかして、たくさんの発見やおどろき、あたらしい友だちにも出会えました。また来年も親子げん場見学会にさんかしたいです。

「優秀賞」
すごいぞ！けんせつきかい
長泉町立長泉小学校三年
渡部 太智



ぼくは親子げん場見学会にさんかして、コマツテクノセンターへ行きました。ついたらけんせつきかいのショーを見ました。さいしよえい画館みたいなのスクリーンが出ていたののでえいぞうを見るのかと思

いしましたが、カーテンが開いてガラスの向こうに工事げん場があらわれたのでわくわくしました。シヨベルカーやホイールローダー、ダンプトラックなどが実さいに動く様子を見るのができました。まじどろいたのは、ラジコンできかいをそう作できるものがあることです。しかも三百メートルもはなれてる所でもそう作できるといつていました。ぼくのラジコンは近くないとだめなので、う力のちがいにびっくりしました。次におどろいたのは、ブルドーザーのブレードが自動でコントロールできる所です。のっている人がかた手でそう作して手をふつていました。あと、はもーターグライダーの形がゾウムシというこん虫にいておもしろいと思ひました。シヨ一の終わりには登場したきかいたちがならんで一せいに動いて「グオー」という音がしました。とても強い動物がさけんだみたいなきかいがしました。

「うんてんはむずかしいです
か。」
としつ問しました。そしたら
「ふつうの車と同じくらいか
んたんですよ。」
と教えてくれました。自動で
コントロールできるぎじゅつ
がすごいと思いました。
さい後にシミュレーターで
うんてんの体けんをしました。
ブルドーザーで地面をけすつ
たり、ショベルカーで石をす
くいとトラックにつんだりする
のをやりました。少しむずか
しいものもありましたがゲー
ムのように楽しくできました。
画面が取りかこむような形を
していて、うつつてゐるえい
ぞうがショーで見た工事げん
場だったので本当に自分がぎ
かいをそう作しているみたい
でした。

高学年の部
「最優秀賞」
親子現場見学会の旅

長泉町立長泉小学校六年

川口 拓真



ぼくはもう六年生なので、
この夏休みが小学校生活最後
になりました。そこで、めい
いっぱい楽しむことにしまし
た。そして母が、この親子現
場見学会を見つけたので、参
加することにしました。
参加する前に楽しみになこと
は、「コマツテクノセンターに
行くことと、もう一つはバス
で家族一緒に旅をすること
です。なかなか家族でバス旅を
することがないので楽しみに
す。
当日、車でバス乗場に向か
う時、ワクワクしていました。
いよいよ、待ちに待ったバ
ス旅のはじまりだ！
ぼくがこのバス旅で特に楽
しかったのがコマツテクノセ
ンターです。たくさんの働く
車のデモンストレーションが
かっこよかったです。なぜだ

ンブカーはあんなに石を運ん
でもタイヤがパンクしたり動
かなくなったりしないのかと
疑問に思いました。
そしてとてもおどろいたの
が、ダンブカーのタイヤがと
ても大きいことです。母より
も大きいのはとてもおどろき
ました。
小さいショベルカーもあり、
どんなどころでつかうのを見
てみたいと思いました。
シミュレーションが楽しか
かったです。ダンブカーやブル
ドーザーなど計三つの機械を
動かしました。ぼくに一番合
うのはダンブカーでした。ブル
ドーザーはほりすぎて前に
進めなくなったりもしたが、
ダンブカーだけは道からはず
れることもなく順調に進むこ
とができました。そしてセン
ターの方に、「上手いねー。」
と言われとてもうれしかった
です。
この一日はとてもじゅうじ
つした一日でした。とても満
足でした。
ぼくはもう六年生なので来
年は中学生になります。そう
すると来年は参加できなくな
ってしまってもかなしいで
す。ですがこの楽しい会はた
くさんの人に体験してほしい
ので、これからもがんばって
ください。

「優秀賞」
コマツの重機を見て

長泉町立長泉北小学校六年

宇野 啓介



ぼくは、八月二日に親子見
学会でコマツテクノセンタに
行ってきました。
まずは重機のショーを見ま
した。日本ではあまり見られ
ないような大きなホイールロ
ーターやダンブトラックが実
際に動いているのを見ることが
できてわくわくしました。
いろいろな重機が出てきて、
ホイールローターやショベル
カーがダンブトラックへ土砂
を積みこむ様子を実際に見ら
れてとてもうれしかったです。
石をすくい上げてダンブトラ
ックに積みこむ様子が力強く
て迫力がありました。それに
ブルドーザーのブレードがな
なめにねじれるのを見ておど
ろきました。そこがねじれる
なんて知らなかったからです。
ねじれる仕組みが想像もでき
なくて、一体どうなっている
のだろうと思いました。また、
遠くまで操作ができる重機も

あって、中に人が乗っていな
くても三百メートルまでなら
はなれたところから動かせる
なんてすごい技術だと思いま
した。
次にシミュレーターで重機
の操作を体験しました。初め
てでむずかしかったけど思っ
たより上手にできました。特
にショベルカーはステイック
を使っての操作がむずかしく、
右のステイックを左右に動か
すとパケットが前後に動くの
で、それぞれの動きの方向が
ちがうので感覚をつかむのが
大変でした。それを使いこな
しているオペレーターさんは
すごいと思いました。ダンブ
トラックのシミュレーターで
は坂道にのり上げて横転して
いる子もいたので、実際に運
転する人は責任が重くてきん
張するだろうなと思いました。
このイベントに参加して、
テレビでしか見たことがない
ような重機を近くで見られて
とてもよかったです。重機の
ことがより好きになつたし、
コマツの技術力がすごくて応
援したくなりました。もつと
建設機械の仕組みについて学
びたいです。
企画してくださった沼津建
設業協会の方、すてきなイベ
ントをありがとうございます。
た。

現場代理人の声



東 静 建 設 (株) 人
堀 内 優

私が建設業に関わりだして10年が経ちました。

この仕事を始めた頃は右も左もわからず、毎日必死に学ぶことで精いっぱいでしたが、気がつけば、現場で働く人や地域の方々とのつながりが自分を成長させてくれたと感じています。

土木の現場では、毎日少しずつ状況が変わります。天気や作業員の体調、現場環境など、どれも工事に影響する大切な要素です。その小さな変化を拾いながら、無理のない作業計画に調整していくことが、現場代理人としての大事な役割だと思っています。

安全管理では、どれだけ経験を重ねても「慣れ」が一番危険だと痛感してきました。だからこそ朝礼時は、作業内容を丁寧に確認し、作業員のみなさんとしっかり話すよう

に心がけています。ちよつとした表情や仕草に気づくことで早めにリスクを察知できることも多く、小さな声を逃がさない姿勢が安全につながるのではないかと思っています。

工程管理は思うように進まないこともあります。必要に応じて作業を切り替えたり、協力業者と相談したりしながら、手詰りがないように臨機応変に対応していきます。うまく工程がつながり、現場全体がまとまり始める瞬間は、この仕事ならではのやりがい

です。地域の方々への説明、あいさつも欠かせません。工事で不便をかけてしまっているからこそ、対応に注意し、安心していただけるように努めています。地域住民の方からの「気をつけてね」や「ありがとう」と声をかけてもらうと励まされる思いです。

そして完成した道路、構造物を実際に活用している場面を見ると、10年の積み重ねが形として残ることに誇りを感じます。

大きな転換期を迎えています。まず深刻なのが人手不足で、若手の減少とベテランの高齢化が進み、現場力の維持が大きな課題となっています。

その一方で、ICT建機や3D測量などのデジタル技術の導入が急速に広がり、従来の働き方を大きく変えつつあります。これらの技術により、作業の省力化、安全性の向上が期待され、若手が入りやすい環境ができてきたのかなと感じています。

これからも建設業の一員として、人とのつながりを忘れずに、安全で誠実なものづくりを続けていきたいと思っています。

私の余暇

「よし、行こう!」と思いきや、新幹線に飛び乗り始まる私の余暇。計画も準備もほとんどしないまま、ただ行き先だけを指して出発します。そんな旅をこれまで何度重ねてきたことでしょうか。交通の便の良いこの街に住んで

いるからこそできることであり、その環境はありがたく、いつも感謝しています。

とりわけ伊勢と京都は、私にとって特別な場所です。宇治橋を渡ると空気が一変し、自然と背筋が伸びていきます。巨木の間を抜ける風に触れると心が洗われるようで、日常の中で忘れがちな静けさが静かに戻ってくるのを感じることができません。京都では、ふと入り込んだ路地にさえ落ち着いた空気が漂い、神社仏閣はそれぞれ異なる趣を持ちながら、どこも時代を超えた静寂に包まれています。こうした場所で過ごす時間は、単なる観光ではなく、自分の内側と向き合うことので

きる大切なひとときとなります。また、旅先で味わう美味しいものも欠かせない楽しみです。季節を感じられる食材、素朴な郷土料理や繊細な味わいの一皿は、その土地の文化と人々の営みが息づき、心まで温かくなります。最近では海外の方も増え、以前より賑やかな場所にはなりましたが、凛とした空気に包まれ、美味しい物に癒される旅は、新たな力を与えてくれる大切な時間です。

これからも、ふとした時に「あそこへ行く!」と、方々へ旅を続けて行くのだろうと思います。



協会の動き

沼工生インターンシップの受け入れ

10月16日〜17日の2日間にわたり、県立沼津工業高校2年生のインターンシップ(就業体験)が行われ、建築科20人、都市環境工学科22人、計42人を会員14社で受け入れた。

各会員は、生徒が将来の建設業の貴重な担い手になることを期待して、代表取締役や社員との懇談、会社の業務説明のほか、現場見学や、CAD実習、VR体験、杭ナビ、ドローン測量、点群解析ソフトの体験など様々な工夫を凝らして対応した。

生徒からは、

- ・建設会社で働くことのおもしろさや楽しさ、大変さを感じる事が出来た。
- ・現場の雰囲気は想像していたより明るく、現場監督の仕事に魅力を感じ、将来の選択肢の幅が広がった。
- ・工事現場では、安全管理の徹底ぶりや職人の高い技術力と従業員のチームワークの良さに大変、感銘を受けた。

多くの社員の方に暖かく接していただき、嬉しかった。また、OBの皆様から貴重なアドバイスを聞いて参考になった。などの感想が寄せられ、有意義な研修となったようだ。



強化安全パトロール

11月5日、安全委員会(長岡重弘委員長)は、沼津労働基準監督署柴崎労働基準監督官、沼津土木事務所芹澤検査員、東部農林事務所溝口検査監の同行を得て、全10人で強化安全パトロールを実施した。

対象となった御殿場・小山区の堰堤改築工事、谷止工事、貯水槽築造工事の計3箇所の工事で、書類や掲示物、重機、作業場の安全対策などの確認を行った。

仮設配線の接触回避安全措置を図ること、道路沿いの作業現場もあり、交通事故等第三者事故の防止を徹底していただきたいと呼びかけた。

県財務部建築関係部局幹部との意見交換会

11月21日、県財務部建築関係部局幹部と当協会役員との意見交換会が県側の要請に基づき、当協会で開催され、県から建築企画課長などを含め7名、協会から9名計16名が出席した。

県財務部杉山建築課長の挨拶のあと、加藤会長は「建築資材費の高騰等課題がある中で、県建築関係部局と協会が率直な意見交換を行い、公共建築工事の安定的な受注に貢献したい。」と挨拶した。

続いて、民間工事を含めた現在の受注状況や、機械・電気設備等の技能者不足、生コン等建設物価の状況について、協会側から説明した。他の主な議題は

- ①発注平準化にあたり受注しやすい発注時期、
- ②複数合併工事の受注への影響、
- ③設計段階での仮設計画への技術支援、
- ④電気、管工事の包含工事の



全4項目。その後、協会からの意見・要望について県側から回答があった。



技術体験発表会

11月26日、技術委員会鈴木昌彦委員長と静岡県土木施工管理技士会沼津地区渡邊正人地区長は合同で、第32回技術体験発表会を協会会議室において開催した。

会員28人のほか、東部農林事務所から監督員等3人に参加いただいた。

冒頭、鈴木委員長は「優良工事部門で、受賞された方々に発表いただき、表彰対象の工事は品質管理が特に優れている。ICT優良工事はICT活用の手法等特徴があり、他工事の参考になると思う」とあいさつした。発表者は、令和7年度に、沼

津土木事務所長、東部農林事務所長表彰を受賞した計4人で、工事の概要と現場での苦労や創意工夫した点を発表した。発表後には監督員から講評をいただいた。

発表者は次のとおり。

(敬称略)

- ・渡邊工業(株) 眞野匡人
- ・(株)寿組 勝又祐貴
- ・(株)河西建設 桜田大輔
- ・(株)オサコー建設 与座香月

「土木の目」イベントに参加

11月15日、災害対策委員会(白井康晴委員長)は土木の目(11月18日)に合わせた県沼津土木事務所主催のイベントに参加した。

地域住民に土木の魅力を身近に感じていただくことを目的に沼津みなと新鮮館にて開催されたもので、パネル展示のほか、体験型コーナー等を設け、子供から大人まで多くの方に土木の仕事を紹介した。当協会





会員親睦インフラ見学会

12月2日、経営厚生委員会（勝又恵一郎委員長）は令和7年度インフラ見学会を埼玉県春日部市の「首都圏外郭放水路」を対象に開催した。

会員26人が参加し、立地上の制約を受けて地下に造られた『防災地下神殿』内の調圧水槽や立坑等の巨大洪水対策施設を見学した。



は重機の体験コーナーを担当し、ブルドーザーに乗車しての記念撮影や、ミニバックホウを試乗操作してのスピードバトルすくいに挑戦してもらった。

当日は、地域住民や観光客等約400人が来場し、重機ブースはとても人気があり、多くの家族連れが楽しんでいった。



○技術委員会・技士会・災害対策委員会合同 大阪・京都方面
10月10日～11日 19人



○安全委員会 神戸方面
10月2日～3日 14人



協会の各委員会が見識の向上と委員の親睦を図るために恒例の研修旅行を行った。

○広報みらい・経営厚生委員会 東京方面
9月26日～27日 9人

委員会研修旅行

地区だより

○優秀施工者(建設マスター) 国土交通大臣顕彰

各種表彰

10月24日には、御殿場市建設業協会駐車場で秋の献血運動への協力活動を行った。協力者は67名で内訳は会員42名、一般25名であった。



御殿場市建設業協会会長勝又恵一郎は、10月16日に奉仕作業として御殿場市内の道路清掃を行った。

この奉仕作業では、毎年観光車両の通行の多い国道・県道（総延長約20km）の道路清掃を順番に行っており、当日も会員が4班に分かれ、丁寧に清掃を行った。会員23社の従業員29名が参加した。

○臨時総会(3月18日)
○県建設業協会理事会(3月19日)

○県建設業協会理事会(2月26日)

○理事会(2月25日)

○沼津工業高校建築科1年生特別授業(2月6日、17日)

○県建設業協会理事会(1月22日)

○強化安全パトロール(1月14日・沼津、長泉、裾野)

主要行事予定



建設業の第一線にあつて、特に優秀な技能・技術を持ち、工事施工の合理化等を進め、後進の指導者育成等に多大な貢献をしている者として、令和7年度の優秀施工者として国土交通大臣顕彰を受章された。

原田 良亮氏(白幸産業株)

写真コンクール 作品募集

- 一、応募資格
 - ・協会の会員、社員・家族
 - ・協力会社、社員・家族
 - ①「いしずえ」の読者は対象外
 - 二、課題
 - ・自由
 - 三、作品
 - ・カラー又は白黒
 - ・キャビネ、四つ切り
 - ・八つ切り
 - 四、募集期間
 - ・令和7年9月1日～
 - ・令和8年1月31日
 - 五、作品の送付先
 - ・(一)社沼津建設業協会
 - ・(二)社沼津建設業協会 広報みらい委員会
 - 六、賞金
 - ・最優秀賞 一点 三万円
 - ・優秀賞 二点 二万円
 - ・佳作 五点 一万円
 - 七、審査
 - ・主催者(広報みらい委員会)
 - 八、発表
 - ・令和8年6月1日発行の「いしずえ」にて掲載する。
 - ・令和8年度の定時総会にて表彰する。
 - 九、募集上の注意事項
 - ・応募作品は一人3点以内。
 - ・作品名、作者名を表示すること、著作権は、当協会に帰属する。
- (広報みらい委員会)